

大島排水区 大規模雨水処理施設整備事業計画（長岡市）

（様式1）

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	<p>大島排水区は、排水先の一級河川信濃川が低水位時は自然流下にて排水しているが、高水位時には川西排水ポンプ場によりポンプ排水している。</p> <p>川西排水ポンプ場は、事業計画870m³/分（126m³/分×1台、186m³/分×4台）に対し、372m³/分（186m³/分×2台）が未整備であり、河川水位上昇時の内水浸水リスクを抱えている。また、当施設は平成2年度に供用を開始しており、老朽化した設備の更新時期を迎えている。さらに、地震時にも適切な雨水排水機能を確保するため、ポンプ場の耐震化を実施する必要がある。</p> <p>平成23年の集中豪雨では、浸水面積は12.6ha、床上浸水戸数は67戸、床下浸水戸数は266戸の被害が発生しており、早急な対策が必要である。</p>
整備目標	<p>① 本計画における対象降雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本計画における対象降雨：42mm/hr ・ 目標とする理由：長岡市公共下水道事業計画（長岡処理区）で定める計画降雨 ・ ハード整備による整備水準の目標：42mm/hr <p>② 目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 都市機能の確保の観点：道路冠水を軽減する。 ii) 個人財産の保護の観点：家屋の浸水被害を軽減する。 iii) その他：特になし <p>③ ハード対策、ソフト対策及び自助の役割分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> i) ハード対策 <ul style="list-style-type: none"> 施設整備により 42mm/hr の降雨において浸水被害を防止することを目的とする。 ii) ソフト対策及び自助 <ul style="list-style-type: none"> 施設整備で対象とする降雨量を上回る降雨において、下水道管理者による内水ハザードマップ作成・公表などの情報提供、地域住民等による防水板設置など、それぞれの主体が対策を実施することにより、浸水被害を最小限に抑える。

項 目	内 容 ・ 施 策 等			
内水ハザードマップ策定状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有 (平成 年 月 日策定済み) ・ 策定予定 (令和8年3月末策定予定) 			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨水ポンプ場の増強 排水能力 372m3/分 (既設能力 498m3/分を 870m3/分に増強) ・ 雨水ポンプ場の改築 中央監視制御設備等更新 一式 ・ 雨水ポンプ場の耐震化 ポンプ棟耐震化 一式
		ソフト対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内水ハザードマップの作成・公表
	自助	ハード対策		<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨水貯留槽設置への助成 (長岡市雨水貯留槽設置補助金交付要綱) ・ 防水板設置への助成 (長岡市防水板設置補助金交付要綱)
		ソフト対策		<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨水ますや側溝の定期清掃

年度計画 (百万円)

名 称	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	計
雨水ポンプ場増強	10	13	236	236	237	237	237	237	1443
雨水ポンプ場改築	8	18				60	60	61	207
雨水ポンプ場耐震化	8	19	174	174	174				549
計	26	50	410	410	411	297	297	298	2199

項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	<p><事業評価の内容></p> <p>被害額：1年あたり 209 百万円が軽減される。</p> <p>B/C：1.4</p> <p><その他の定量的な効果></p> <p>ソフト対策，自助の整備効果等：</p> <p>内水ハザードマップによる情報提供及び防水板設置等により、浸水被害を低減する。</p>
放流先河川との調整状況	<p>川西排水ポンプ場の排水能力 870m³/分は下水道事業計画策定済みであり、排水量について排水先河川管理者と協議済みである。</p>
その他	<p>道路部局、河川部局、防災部局等と連携し、大規模雨水処理施設整備事業計画を策定した。</p>